

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	いとしのエリーズ
-----	----------

取組の名称	こども食堂（3拠点①②③）・こどもの居場所づくり④⑤
実施場所	① ④川崎市宮前区菅生ケ丘 23 - 6 菅生ケ丘公園 ② ⑤川崎市麻生区早野 88-2 ③ 川崎市宮前区神木本町 5-12-15 フレンド神木
対象地域	① ④川崎市宮前区菅生ケ丘 ② ⑤川崎市麻生区早野 ③ 川崎市宮前区神木本町
対象地域の特色・課題	① ④宮前区菅生ケ丘 すぐ近くにこども文化センターや、別のこども食堂開催団体もあり、こどもたちの見守り環境がある。課題：実際に要保護・要支援対象となっているこどもがいることがわかっている。 ② ⑤麻生区早野 小学校がいくつかあるが、各学校クラス数が少ない。遊び場が1か所の公園に集中している。 ③ 宮前区神木本町 近隣に小学校中学校が多く、近くの公園で遊ぶこどもたちが多い。地域包括の関わる施設のため地域の高齢者やおとな、民生委員の方なども多く関わってくれている
取組の趣旨・目的	親の孤立感の解消やこどもの孤食を防ぐこと、地域やこどもたちの交流の場、こどもたちが安心して過ごせる居場所となること また、こどももおとなも関係なく交流できるこども食堂を通して、お互いに顔のわかる関係を作ることができ、問題や悩みを相談しやすい環境となることを目的としている。

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>① エリーズカフェこども食堂：毎月第3木曜日 15：00～18：00 開催 食事テイクアウトこども 100 円 おとな 250 円 かき氷無料やわたあめ無料 その他イベント開催 年に1度近隣小学校のイベントへ出張こども食堂実施</p> <p>② 春らってこども食堂：毎月第1金曜日 15:00～18:00 開催 月替わりメニューでおとなもこどもも無料 かき氷やわたあめなども提供(2026 年度より別団体として独立)</p> <p>③ 春らってこども食堂@フレンド神木：毎月最終金曜日 16:00～19:00 開催(9 月、12 月、2 月お休み) 月替わりメニュー こども無料・大人 300 円(2026 年度より別団体として独立)</p> <p>④ ⑤こどもの居場所：平日週 5 日毎日子供たちの受け入れを実施。宿題やお絵かき、YouTube やゲーム 不定期で放課後イベントを開催</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>こども食堂：年齢問わず こどもの居場所：高校生まで</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>定員定めず</p>
<p>実施頻度</p>	<p>こども食堂：3 拠点ともに月に1回 こどもの居場所：平日週 5 日</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>こども食堂①②③ 計：36 日 こどもの居場所④ ⑤：240 日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>こども食堂①②③：参加希望ボランティア人数制限なく受け入れ 毎回だいたい 10～25 人体制で実施。</p> <p>こどもの居場所④：1 日 2 人体制(ボランティア)週 5 日 こどもの居場所⑤：1 日 1 人体制(ボランティア)週 5 日</p>		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>●宮前区菅生ケ丘 要保護児童対策地域協議会：要対協に参加している。支援の必要なこどもを適切な機関(地域支援課や児童相談所)へつなげる。 稗原小学校：学校からのイベントの参加や要望などもあり、学校教員や父の会とも連携が取れる体制にある。 菅生こども文化センター：共通して利用しているこどもも多い。気になることがあれば都度連絡を取っている。 緑政部みどりの管理課：公園の管理や活用について協力関係にある。こども食堂の活動や目的についても職員へ共有している。</p> <p>●麻生区早野 麻生区役所地域支援課：区役所職員へ情報共有し、支援の必要なこどもを連れて参加してくれている。東柿生小学校と繋いでくださっている。 東柿生小学校：こども食堂のチラシを校内配布や掲示をしてきている。</p> <p>●宮前区神木本町 フレンド神木地域包括支援センター職員：毎月情報を地域へ発信してくれており、地域の小学校中学校への情報提供、地域の高齢者の家庭などへも情報を提供している。 また、地域の民生委員への情報共有もしてくれており、ボランティアとしての協力へつないでくれている。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>① エリーズカフェこども食堂 宮前区菅生ケ丘周辺の住民（子ども大人関係なく）の交流の場となり、保護者や地域の大人、上記連携する団体の協力や、障害福祉事業所の協力もあり、子どもの発達や福祉サービスについてなど、世間話のように気軽に話ができる場所になっている。</p> <p>④ 日々の受け入れの中で、子ども達から悩みなど聞くことができる。自身の悩みや家庭の悩みなど、自宅や学校とは違う環境があることで話しやすい場合もある。こども食堂で一緒に遊び、顔見知りになることで、日常的にも安心して遊びに来れる場所となっている。</p> <p>②春らってこども食堂 麻生区早野の地域との関係性を深めることが出来た。こどもの参加も徐々に増え、1年か</p>

けて顔なじみになったこどもが十数名。少しずつ地域へ浸透している。障害福祉の事業所にて協働で開催することでお互いの理解を深め、障害の有無関係なく一緒に遊んで楽しい時間を過ごしている。2026年度より新たな団体として独立し、より地域に根付いた活動を目指していく。

③春らってこども食堂@フレンド神木 上記団体が、出張形式で宮前区神木本町で開催。実施施設の地域包括支援センターの職員が地域の学校や家庭、こどもに限らず高齢者にも情報提供をし広めてくださっていることで、多くの参加者に恵まれ、地域でこども食堂を見守る体制となった。参加している高齢者がこどもへ勉強を教えたり、参加しているこどもの元気な姿が地域の高齢者へ元気を与える様子が見られた。

⑤こどもの居場所(麻生区早野) 毎日スタッフを配置し居場所としての開放をしていたが参加者はほとんどなく、イベント形式での開催でも数名の参加にとどまった。イベントの企画や広報などをしつつ、こども食堂へ参加しているこどもや家族へ聞き取りを行ったところ「1か所の公園にみんな集まって遊んでいるみたい」と。次年度も地域の方へ聞き取りをしながら放課後の遊び場として活用してもらえるよう取り組みを続けていく。